カザフスタンでの留学経験についてのインタビュー

**「Q1　将来、あなたはカザフスタンでの留学中の経験をどうやって生かしますか。」**

芹川さん

「現在、生活をする上でロシア語を使ったり、ロシア語で専門分野の授業を受けています。

しかし、将来、ロシア語を使うつもりはありません。というのも、ロシア語を使った職業に就くことををあまり考えていないからです。留学中にえた経験は、ロシア語だけでなく、他にも色々あると思っています。例えば、私は現在、文学人類学の点からカザフスタンのバザールを研究しています。学部時代、日本の商店でも似たような調査をしました。

カザフスタンのバザールをフィールド調査していて、カザフスタンの商人の実践が日本の商人の実践と異なるということがよく分かりました。バザールで働く商人たちを観察するということは、今後の将来の仕事に役に立てるのではと思っています。」

段上さん

「私は、日本に戻った半年後には就職活動をすることになるんですけれども、その時には、ロシア語を使えるような仕事を見つけたいと思ってます。ただ、ロシア語を使った職が果たして日本にあるのかという問題があるので、実際にはロシア語を使った職業に就くのは難しいと考えています。」

**「Q2 あなたはカザフスタンで留学して、どのようなスキルを身につけましたか。」**

芹川さん

「生きる上でのたくましさというのを身につけたと思います。例えば、生活力があります。

日本では、あまり自炊をしなかったんですけど、こちらに来てからは、料理をするようになりました。また、私は寮で生活をしています。カザフスタンの寮は、日本と異なり、一つの部屋に複数人が押し込まれ、そこで寝食をともにします。最初はロシア人と、二番目はカザフ人と住みました。その中で彼らの考えた方を少し理解していきました。また、時には腹が立つことがあったんですが、何とか喧嘩をせずにやってこれました。

忍耐力が一番ついたというのがカザフスタンでの大きな経験と言えると思います。」

段上さん

「私は日本にいたとき、自分の意見をはっきり言う時があったんですけれども、それは親しい人にだけでした。カザフスタンに来てから、自分の意見、意思、希望をはっきり言わないといけないということが分かりました。それをはっきり言えるようになったというのが、自分にとって一番大きな変化でした。2017年1月にカザフスタンのアルマティ市でユニバーシアードがあり、その時にボランティアとして働いたんですけれど、その時にカザフスタンの人たちの働き方に関する考え方を知りました。日本人の場合、たくさんミーティングをしたり、何でもリーダーに報告して、仕事を進めるという考え方をよくしていると思うんですけど、カザフ人の場合、リーダーに全てのことを報告したりしないし、あまりミーディングをしないということが分かりました。カザフスタンの仕事の仕方が間違っているということでないと思います。日本には日本のやり方が、カザフスタンにはカザフのやり方があってもいいと思います。ユニバーシアードでの経験を通して、日本人とカザフ人の仕事の進め方を知ることができました。」

インタビューアー：Yerzhan Bolat